

e-learning「learningBOX」の全学的導入

教学IRをきっかけとする教育改善の事例

鈴鹿医療科学大学 IR推進室

e-learning「learningBOX」の全学的導入

【改善のきっかけとなるIRデータ】

- ・ 2020年4月より新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全面的に遠隔授業に移行したことをきっかけに、一部の教員が学生の学力低下を懸念してe-learning「**learningBox**」を使い始めた。「learningBox」を使用した科目では成績分布が前年に比較して全体的に向上し、使用しなかった科目は成績が低下した。
- ・ 授業評価アンケートで、学生からのe-learningを支持、あるいは要望する意見が多数寄せられた。

【具体的な教育改善例】

- ・ e-learningシステム「learningBOX」を全学的に導入。
- ・ 一部の教員だけが「learningBOX」を使うだけでは、全体としての教育効果は小さいと考えられ、その使用を全教員に普及させるために、「**LMS研究部会**」を立ち上げた。

< **LMS研究部会**の主な活動 >

- ・ e-learningシステム「learningBOX」の全教員への普及活動。
- ・ e-learningの使い方の工夫を共有化する「LMS研究会」の開催。
- ・ 株式会社「learningBOX社」と産学連携協定。

【教育改善結果】

- ・ 8割の教員が「learningBOX」を使用。
- ・ 学生の習熟度に応じた学習コンテンツを提供することで、学習到達度の底上げと成績が改善され、留年率、退学率が減少傾向になった。
- ・ 「いつでもどこでも学べる環境」により、学生の学習意欲向上し、学生の学習時間が増加した。
- ・ 国家試験対策で活用した学科では、国家試験合格率の向上、合格率を維持。
→ コロナ禍による全面的な遠隔授業への移行を経験する中でも、
「learningBOX」を活用した学習支援により、国家試験合格率を維持。